

令和元年度 海外研修（韓国）を終えて

国際交流委員 吉田 英明

1 はじめに

今思うと、今年度韓国研修を実施できたのは奇跡であった。研修最終日の1月24日（金）、ソウル市内で1名の新型コロナウイルス感染者が出たとのニュースが流れていたが、行き帰りの空港での検疫で赤外線サーモグラフィによる体温チェックを受けただけで、今回の研修の行程に全く影響はなかった。1月24日は春節の初日で、中国や韓国をはじめとするアジア各国では激しい人の往来が予想されてはいたが、新型コロナウイルスの影響が出始める前に、無事に日本に帰国することができた。出発が数日遅かったら、実施することはできなかったかもしれない。

また、そもそも今年度の韓国研修は、計画の段階から実施することが危ぶまれていた。政治的な日韓関係の悪化が理由である。引率する私自身も、もし実施して生徒たちに危害が加えられるようなことはないだろうか、と不安を感じていた。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

令和元年9月5日、本校深谷校長から異例の文書が、韓国研修参加希望者の保護者に渡された。

令和2年1月20日から24日までの5日間、韓国ソウルにて研修の準備をしてきたが、日韓関係が政治的に不安定な状況にあり、これから行われる韓国研修に対して不安を感じている生徒および保護者が出てきている。しかし、現時点では、4つの理由から実施する方向で進めていく、というものである。

- ①平成26年度から韓国研修を続けており、その成果は十分上がっているから。
- ②文部科学大臣も「青少年交流は、草の根レベルの取り組みを可能な限り続けていくべきだ」という見解を示している。
- ③訪問予定の長谷（ジャンゴック）高校は、昨年本校生が大歓迎を受け、本校生の印象が非常に良かった学校であり、両校は極めて友好的な関係にあるから。
- ④報道の一部は事実だとしてもそれがすべてではなく、むしろそのほとんどは政治的なことであり、韓国国民の一般的な感覚とは異なると思われるから。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

メディアの報道を見る限り日韓関係は冷え込み、この時期に海外研修といわれても不安に思う親は少なくないはずである。このような情勢でも、海外研修を継続することの重要性、海外研修がどれほど高校生たちにとって素晴らしいものであるかを知る深谷校長は、ぶれることはなかった。

しかし、そこに嫌なニュースが伝わってきた。昨年大歓迎してくれた長谷高校の校長に深谷校長がメールで交流事業について問い合わせたところ、1週間後に、「保護者が政治的問題と環境問題に不安を抱き、交流に反対している。説得は困難で、交流事業は不可能と結論づけました」という内容の返信があった。4ヶ月前になって、受け入れてくれるはずの高校から不可能であると告げられたのだ。

それでも深谷校長はぶれなかった。それならば、過去に交流があったイゼワン先生に依頼してみようということになった。5年前の全国高等学校総合文化祭のときに、韓国の交流団メンバーとして中央高校に訪問してくれた韓国の高校の先生である。イゼワン先生は快諾して下さり、現在勤務している大真高校で受け入れて下さることになった。このような情勢でも韓国に日本を快く受け入れてくれる方がいた。非常に嬉しいことである。日韓両国で、人と人との交流の重要性を説く二人の熱い思いが、研修実施3ヶ月前に実を結んだ。

この経緯が、読売新聞によって取材され、掲載された。

高校生 来年も日韓交流

小美玉・中央高 事業継続

校長「相互理解が必要」

海外研修で韓国の高校に生徒を派遣している県立中央高校（小美玉市）が、日韓関係が悪化する中、来年1月の事業継続にきまつけた。当初予定していた韓国の高校は辞退したが、過去に交流のあった韓国人教員の尽力で別の高校で受け入れが決まった。深谷浩一校長は「（関係改善には）日韓両国の青少年の相互理解が必要。若い世代の交流が広がるきっかけになれば」と期待を寄せている。（岩浅憲史）

国際交流の推進を掲げる同校は、2013年度から韓国の高校を海外研修の派遣先の一つに加えた。希望

する生徒は、同校の韓国人非常勤講師から韓国語を学んだり、自分で調べて伝統文化の理解を深めたりして研修に臨む。今年1月にはソウル市近郊の長谷高校に生徒16人を派遣した。

深谷校長によると、女子生徒を中心にKポップやアイドルなど韓国文化への関心が高く、希望する生徒は増加傾向にある。来年1月も同校に1、2年の女子生徒17人を派遣予定だった。

しかし、元韓国人雇用工訴訟問題をきっかけに悪化した日韓関係は、日本政府が輸出手続上の優遇国から韓国を除外することを閣議決定して以降、さらに悪化。不安になった深谷校長

は今年9月初旬、長谷高校の校長に英語のメールで交流事業について問い合わせをした。

約1週間後、返信されてきたメールには「保護者が政治的問題と環境問題に不安を抱き、交流に反対している。説得は困難で、交流事業の継続は不可能と結論づけました」と書かれていた。環境問題は、福島第一原発事故に対する保護者の不安が今も拭き取られていないことを意味していた。

ただ、深谷校長は「政治と民間レベルの対人交流は別物」と思い、事業継続を模索。本県で5年前に開かれた全国高等学校総合文化祭で、韓国の交流団メンバーとして来校し、交流のあった同国の高校男性教員に相談したところ、協力を快諾し、自身が勤務するソウル市近郊の大眞高校で受け入れが決まった。

中央高校は生徒を来年1月20、24日の日程で韓国に派遣する予定。団長を務め

る2年の高橋蘭さん（16）は韓国の人気ヒップホップグループ「BTS（防弾少年団）」のファンで、今夏に韓国のライブ会場で並んでいる時に韓国人のスタッフから水をもらい、街中の化粧品店などでも多くの人に日本語で話しかけられたという。「優しさがうれしかった。韓国の音楽や食べ物が好きなので、勉強してきた韓国語で現地の高校生と仲良くできれば」と話す。

20年以上にわたり国際交流事業に取り組む深谷校長は「生徒には差別しない心を育み、国際感覚を養ってほしい。研修を成功させ続けていきたい」と話した。



今年1月の韓国研修の様子。県立中央高校の生徒は、訪問先の長谷高校で、韓国の様子や印鑑作りを通して交流を深めた（県立中央高提供）

令和元年11月26日（火）付け読売新聞より転載。

※掲載にあたっては、読売新聞社から転載の許可を得ています。

2 事前研修

行程がはっきり決まらないまま、事前研修が始まった。以下のとおりである。

- 第1回（7月19日） 海外研修の心得，パスポート取得等についての諸注意など
- 第2回（11月14日） 渡航に関する手続き
- 第3回（12月13日） 本校韓国語担当教員李先生による語学研修
（韓国語での自己紹介等，研修中必要となる表現を学ぶ）
- 第4回（12月17日） 部屋割決め
学校交流・大学生との市内研修のグループ決め
韓国の大学生との市内研修の活動計画表作成
- 第5回（12月18日） 国士舘大学 21 世紀アジア学部の大学院生による研修
・「韓国への短期留学を経験して」日本人学生
・「韓国の歴史と日本との違い」韓国人留学生
（韓国の現代文化・歴史について学ぶ）
- 結団式（1月17日） 校長講話，団長挨拶，生徒代表挨拶
近畿日本ツーリスト青木様による最終打ち合わせ

3 行程

第1日目	1月20日（月）	13:30	羽田空港国際線ターミナル集合
		15:45	羽田空港発（JAL93 便）
		18:00	金浦空港着
		20:00	夕食（サムギョプサル）
		21:20	ホテル着

集合30分前にはほとんどの生徒が集まり，順調なスタートであった。手荷物検査や出国審査などもスムーズに進み，出発ロビーで1時間以上のゆったりとした時間を過ごすことができた。出発直前に吐き気がするという生徒が出たが，機内でCAやパーサーに助けられ，どうにか無事金浦空港に到着し，出迎えてくれた現地ガイドと合流した。体調不良の生徒は，鈴木先生と宿泊先のホテルにタクシーで直行し，それ以外のメンバーは，ガイドとともに貸し切りバスでソウル市内のサムギョプサルで有名なレストランへ向かった。予定より遅れて金浦空港を出たため，外は真っ暗で，非常に寒かった。現地ガイドは，ソボンヒさんという日本語が上手な女性で，緊張と不安で疲れた私たちを和ませようと，マイクで気さくに話しかけてくれた。サムギョプサルのレストランでは，みな美味しそうに熱々の豚バラ肉をサンチュで巻いてほおばっていた。ホテルに着き，チェックインを済ませた後，近くのコンビニで飲料水等を購入させ1日目の行程を終了した。



第2日目

1月21日（火）

- 7:00 朝食（ホテル）
- 8:30 出発（貸し切りバス・現地ガイド有り）
- 10:00 自由の橋見学，オドゥサン統一展望台見学
- 13:00 昼食（石焼きビビンバ）
- 14:00 世界遺産「昌徳宮」，韓服体験
- 17:00 仁寺洞散策
- 18:00 夕食（海鮮鍋）
- 19:30 ホテル着

先日体調不良だった生徒はぐっすり睡眠をとり体調は回復し，2日目は全員が元気な状態でスタートを切ることができた。8時30分にホテルを出発し，北朝鮮との国境付近にあるオドゥサン統一展望台，自由の橋に向かった。ガイドのソボンヒさんは，バスの中でも，現地においても，私たちに對して上手な日本語で言葉や文化，歴史などを詳しく教えてくださった。韓国と北朝鮮の悲しく複雑な関係をあらためて知ることができた。何より生徒たちは，展望台から2.1Km先に見える北朝鮮の集落や住まい，緑がほとんどなく茶色く広がる土地を自分の目で見て，衝撃を受けていた。



ソウルに戻り，昼食に石焼きビビンバを食べた。空腹に本場の石焼きビビンバは格別であった。食べ方をソボンヒさんから教えてもらい，本場の食べ方で美味しくいただいた。

その後世界遺産「昌徳宮」を見学した。世界遺産を目の前にしても，生徒たちの興味は，可愛く変身できる「チマチョゴリ」にあった。毎年恒例のようだが，韓服体験を楽しみにしている生徒が多い。全員の生徒が，上下のコーディネートを考えて服の色，デザインを選び，髪を結ってもらうのにどれほど待たせようか。女性の洋服選びに付き合ったような気分で我慢して待ち続けた。カッコよくなれないのは分かっていたが，ただ待つのも辛いので，私も変身した。そしてようやく世界遺産を見学できるかと思いきや，変身後は撮影会であった。これが女子高生というものなのだろうか。

その後，バスで仁寺洞に移動した。韓国の伝統工芸品を扱う店が多い街の散策である。ソボンヒさんは，日本でいう浅草のような街だと説明してくれた。若者に興味ある服や化粧品のお店が少ないようで，生徒には不評であった。ただ生徒たちの食欲は旺盛で，このあと海鮮鍋を食べることを伝えていたにもかかわらず，よく映えておいしそうな食べ物をたくさん食べた生徒もいたようである。



夕食の海鮮鍋も高校生には贅沢と思うほど本格的であった。エビやカニ等そのまま入っている食材が多く，はさみで殻を切りながら食べなくてはならない。韓国では，ハサミは食器なのだ。生徒には慣れない作業であった。

2日目も，最後はコンビニに連れて行き業務を終えた。満腹なはずの生徒たちだったが，大量の飲み物，食べ物を調達していた。

第3日目

1月22日（水）

7:00 朝食（ホテル）
9:30 出発（貸し切りバス・現地ガイド有り）
10:00 大真高校着 歓迎式、生徒同士の交流会
11:00 大真高校男子高生とソウル自主研修
14:00 景福宮集合、守門将交代式観覧、民族博物館見学
17:30 明洞集合、大真高校男子高校生と夕食（プルコギ）
20:00 ホテル着

3日目にして初めて中央高校の制服で過ごす日である。中央高校の、というより日本代表の看板を背負って行動する日である。私も生徒たちも、心なしかそわそわしていた。全く動じていない様子の鈴木先生だけが頼りだった。

渋滞にはまり到着が少々遅れた。それにもかかわらず、バスが大真高校の門から敷地に入り校舎の方へ坂を上っていくと、そこには大真高校の生徒や先生が一行に並び待っているのではないか。大真高校の生徒たちの歓迎ぶりがうかがえる。その中にひときわ大きな体でがっしりとした大人がいた。まさに彼がイゼワン先生であった。生徒たちは講義室へ、我々教員は広くて立派な校長室へ通された。

生徒たちはみな緊張していたが、私も極度に緊張していた。交流会の次第、その後の日程を、我々は知らない。そして大真高校の校長先生、教頭先生、イゼワン先生、みな日本語はほとんど話せないようである。ガイドのソボンヒさんを介しての会話である。通訳に間に入ってもらいながら会話をするのは初経験である。会話中の微妙なタイムラグがたまらない。通訳が1人しかいないため、鈴木先生が話しているときはしゃべれない。韓国語をかじった程度の私には会話中の手がかりはほとんどない。言葉を発するタイミングが難しい。無口になる。沈黙は辛い。心の底から、韓国語を勉強しておけばよかったと後悔した。



時間になり、交流会が開かれる部屋へ通された。日韓両国の生徒たちは緊張を隠せない様子である。本校生徒たちは、交流会がどのように進められるか知らされないまま、大真高校の男子高校生の隣に座るよう勧められ、言われるがままに着席した。まず、大真高校の校長先生からの挨拶、本校鈴木先生からの韓国語での挨拶、その後大真高校の生徒代表による日本語での挨拶、本校生徒代表の挨拶、そしてプレゼント交換、動画による両校の紹介が行われた。大真高校の代表生徒は、日本語で、あえてメモを見ずに挨拶してくれた。緊張して準備していたことを言いきれなかったようであるが、どうしてもメモを見ないで言いたいというその心意気に



私は嬉しくなっていました。大真高校の生徒たちの私たちに日本人に対する純粋な興味関心、先生方の受け入れて下さる姿勢の懐の深さには感動を覚えた。

この韓国側大真高校の先生方・生徒たちの、私たちに対する受け入れの姿勢、おもてなしの姿勢が素晴らしい理由の1つに、鈴木先生の挨拶のスピーチがあったと考えている。鈴木先生の熱いメッセージに大真高校の先生方・生徒たちの心はギュッと掴まれてしまったのではなからうか。鈴木先生に敬意を表して、そのスピーチを紹介したい。

여러분, 안녕하십니까. 처음 뵙겠습니다. 만나서 반갑습니다.
 みなさん、こんにちは。初めまして。お会い出来て嬉しいです。
 저는鈴木美奈子입니다. 준양고등학교 영어교사입니다.
 私は鈴木美奈子と申します。中央高等学校の英語の教師です。
 어렸을때 저는 한국에 매우 흥미가 있었습니다.
 若い頃、私は韓国にとっても興味がありました。
 그래서 대학교에서 이년 한국어를 배웠습니다.
 そのため、大学で2年間韓国語を学びました。
 그당시 한국은 지리적느로 가깝지만 신리적으로 먼나라 였습니다.
 その当時、韓国は、地理的には近いけれども、心理的には遠い国でした。
 그래도 우리는 우리의이웃을 잘 아라야 한다고 생각했습니다.
 しかし、私たちは、隣人についてもっとよく知るべきだと考えていました。
 그때문에 이십어 년 전 서울대학교에서 한국어단기 강습을 받았습니다.
 そこで、25年前には、ソウル大学で韓国語の短期研修を受けました。
 제가 만난 한국 사람들은 모두 친절 했습니다.
 私が出会った韓国の人々は皆親切でした。
 그래서 한국을 더 좋아하게 되었습니다. 다시 한국에 오고 싶어 졌습니다.
 そこで、韓国がもっと好きになりました。また韓国に来たいと思いました。
 지금 제꿈이 이루어 졌습니다.
 今、私の夢が叶いました。
 또 서울에 우리 학생들 과 같이 올수있어 정말 기쁩니다.
 再びソウルへ、生徒たちと一緒に来ることが出来て 本当に嬉しいです。
 학생들이 한국어 와 한국문화를 많이 공부해 주었으면 좋겠습니다.
 生徒たちには、韓国語と韓国文化をたくさん勉強してもらいたいです。
 그리고 한국을 더 좋아해 주었으면 좋겠습니다.
 そして韓国をもっと好きになってもらいたいです。
 이교류는 대진 와 중안 학생 모두 에게 소중한 경험이 될것입니다.
 この交流は、大眞高校と中央高校の皆さんにとって 貴重な経験となることでしょう。
 오늘뿐 아니라 미래에도
 今日だけでなく、将来においても、
 학생들은 이번 상호 교류를 통해 한일 양국 간의 친선을 도모하게 될 것입니다.
 生徒の皆さんは この相互交流を通して、韓日両国間の親善をはかるでしょう。
 마지막으로 李在浣선생님 의 도움에 깊은 감사의 말씀을 전합니다.
 最後に、李在浣先生のご支援に、深く感謝の言葉を申し上げます。
 대진 학교 선생님들, 학생들에 호의에 대해 뭐라고 감사를 드려야 할지 모르겠습니다.
 大眞高校の先生方、学生の皆さん、ご厚意に対し、感謝の言葉ありません。
 여로분 감사합니다.
 皆さん、ありがとうございました。

その後は両国の生徒同士のグループに分かれて自主研修がはじまった。「昼食をとり 14:00 に景福宮光化門集合」という、さすが懐の深いイゼワン先生のプランである。イゼワン先生は全く生徒たちを心配していない。生徒に何かあったらどうしたら良いのだろうか。そして我々はこの後一体どうすべきなのか。不安でどうしようもない私たちに対して、「一緒に食事に行きましょう」と自家用車でミシュランガイドに載る「すいとん」の店に連れて行きご馳走して下さった。様々な不安は、美味しく愉快地食事をしているうちに薄らいでいった。コミュニケーションを深める上で、美味しい食事と飲み物は万国共通で大事であることを悟った。生徒たちも、大真高校の生徒たちと美味しい物を食べた喜んでいて。14:00 に集合したときには、驚くほど両国生徒の距離が近づいていた。

光化門では、守門将の交代式の見学をした。鈴木先生が下見のために韓国を訪れた際、ぜひ生徒たちに見せたいとプランに入れたものである。色鮮やかで大陸的な伝統服を身にまとった守門将たちが楽器を打ち鳴らしながら列をなして行進する姿は、とても勇壮であり、新鮮であった。大真高校男子生徒との距離を縮めた中央高校生にどう映っていたかは、よく分からない。



その後は、再びイゼワン先生の自由行動プランである。17:30 に明洞のダイソー前の広場集合という豪快なものであった。私たちは生徒と別れ、ソボンヒさんに「景福宮」を案内していただいた。

「景福宮」の歴史は、我々日本人には複雑なものである。光化門を入ったところには、かつて門と宮殿を分断する形で朝鮮総督府が置かれていた。景福宮の奥には、日本軍によって閔妃（李氏朝鮮第26代高宗の妃）が暗殺され焼却された場所がある。日が傾き始めたころ、ソボンヒさんが涙ながらにそのエピソードを解説された時は、何とも言えない重い気持ちになった。

地下鉄に乗り明洞に向かうと、すでにいくつかのグループが集合場所近くで写真を撮っていた。全グループが集まると、行列をつくりプルコギの店に向かった。日韓両国の生徒たちも、大人も、美味しいプルコギ囲んで、うち解けることができた。夢見心地の生徒たちは、食後店を出てからも、別れを惜しみ何枚も何枚も写真を撮っていた。

帰りのバスの中では夢のようなひとときの余韻を楽しみながら、ソウルの繁華街明洞を後にし、ホテルへと向かった。

非常に疲れた1日であったが、生徒たちはその夜も元気にコンビニで飲み物、食べ物を買い込んでいた。



第4日目

1月23日（木）

- 7:00 朝食（ホテル）
- 9:00 現地女子大学生ガイドとの対面
- 9:15 ガイドとソウル市内自主研修出発
- 17:00 ホテルロビー集合
- 18:00 夕食（プデチゲ）
- 19:45 ホテル着

9:00前に現地ガイドはホテルに来てくれた。生徒にスイッチが入ってしまうのではないかと心配しなくてはならないようなとても華やかな女子大生を想像していたが、ごく普通の真面目なオンニ（お姉さん）で安心した。ホテルのロビーで対面し、ずっと前から生徒たちが楽しみにしていたソウル自主研修がスタートした。若者で賑わう弘大、梨大、カロスギルあたりに向かい、美味しいものを心ゆくまで食べ、そこでしか買えない物を持てる限り購入していた。

どのグループもほぼ時間通り、買い物袋一杯に食べ物や化粧品のお土産を詰め込み、満足そうな笑顔で帰ってきた。日本語が上手な韓国の女子大生ガイドのおかげで、実質最後の研修日に最高の思い出をつくることができたようである。



その夜は、プデチゲの店に向かった。「プデチゲ」とは「部隊チゲ」のことで、朝鮮戦争休戦後アメリカ軍がしばらく駐留していたが、そのアメリカ軍の部隊がいなくなった缶詰のスパムなどを使って作った鍋のことである。即席ラーメンをボリッと割って鍋に入れるジャンキーな鍋だが、生徒たちにはちょうどよい美味しさのようで、とても好評であった。

最後の夜も、やはり近くのコンビニに生徒たちを連れて行った。必要であれば翌日の朝食も購入すること、早く買い物をすませ明日に備え荷造りをして、とにかく早く寝ることを指示し、4日目の業務を終了した。

第5日目

1月24日（金）

- 5:00 出発（貸し切りバス・現地ガイド有り）
- 6:00 金浦空港着
- 8:00 金浦空港発（JAL090 便）
- 10:00 羽田空港着
- 10:50 解散

「飛行機に乗り遅れたらみんな帰国できなくなる」、生徒たちには怖い言葉だったのかもしれない。ほとんどの生徒が余裕を持ってホテルのロビーに集まり、バスに荷物を積み込んだ。予定通りホテルを出発し、ソウルの街との別れを惜しみながら金浦空港に向かった。最後まで付き添って下さった現地ガイドのソボンヒさんと空港で別れの握手をしたときには、4日前不安な気持ちでこの金浦空港から入国したときの記憶や、一緒に食事をしたり名所を案内していただいたりしたときの思い出がよみがえり、目頭が熱くなった。

帰りの機内では体調不良の訴えもなく、ゆったりとした気持ちで今回の研修を振り返ることができた。「一生の思い出となるような韓国研修になるよう君たちをサポートする」と言って引率してきた。研修を終えようとしている今、中央高校生16名は果たしてどのような気持ちでいるだろうか。羽田空港に着いたとき、まずは16名の生徒を無事帰国させることができたことに、私はそっと胸を撫で下ろした。そしてもう1つ、実務的なところで細かな準備をしてくれていた鈴木先生に迷惑をかけてはいけない、足を引っ張ってはいけない、自分にやれることで貢献しなくてはならない、という思いで5日間を過ごしてきたが、大丈夫だったのだろうか、それがとても心配であった。しかし解散後、鈴木先生から「思い描いていたような研修ができた」との感想を聞き、今回の韓国研修の引率を引き受けて良かったと、あらためて実感することができた。



4 生徒の感想

プライベートで行く韓国とは全然違う体験ができてすごく嬉しかったです。一番は大真高校の方と過ごした1日です。住む国も、話す言葉も違うのに日本語で話しかけてくれて、コミュニケーションをとってくれて、私たちを受け入れてくれて、それが何より幸せなことでした。韓国に実際に行かないと分からないことを、たくさん知ることができたと思います。日本にいてテレビを見ているだけでは、今の私の考えとは全く違う考えだったと思いました。何千万人もいる韓国人の中で、日本をよく思っていない人も少なくないけれど、それは日本も同じで、お互い全てを理解している人はいないから、その中でこのような素敵な韓国人にこの研修を通して出会えたことが本当に幸せで、嬉しいことだと思っています。無理に日韓関係を良くしようとしなくても、私たちのように韓国を好きな日本人、日本を好きな韓国人が交流できて、楽しい時間を過ごせる環境が永遠に続けばそれでいいなと思いました。この4泊5日の研修のために色々考えてくださった校長先生に感謝しています。(2年生)

K-POPから韓国に興味を持ち、ずっと行ってみたいと思っていたので、今回の研修に参加することを決めました。楽しみである反面、最近の政治的な日韓関係も心にあったので、正直不安もありました。でも、実際に5日間過ごして感じたのは、現地の人たちの優しさです。大真の高校生、大学生、ガイドさん、店員さんなどたくさんの人と会話をしました。翻訳アプリを利用したり、習った韓国語を使ったり、なかには日本語が上手な人もいました。行きたいところに案内してくれるだけでなく、その場所について説明もしてくれました。特に日本語で一生懸命に伝えようとしてくれる姿がとても嬉しかったです。また私は気になっていたことを高校生と大学生に聞きました。「日本のことをどう思いますか？」そうしたら、文化やテレビ、アーティスト、アニメなどに興味があったようで、「日本、好きです!」と言ってくれました。「行ったことがある」、「行ってみたい」と言う人もいました。それを聞いて、本当に嬉しくなりました。ここには書ききれないくらい楽しかったこと、学んだことがたくさんありました。また韓国に行きたいです。(2年生)

今回の韓国研修を通して学んだことは、日本と韓国は政府関係ではあまり仲が良くないけれど、民間では普通に日本人が韓国に行ったり、日韓の友達がいたり作ったりしていて、交友関係には政府の問題は全く関係ないということです。

私は韓国語を授業で選択していないので全く分からなく、そのまま韓国に行って過ごしたけれど、3、4日目は大真高校の人たちや大学生のガイドさんと会話するのに韓国語を少しでもしゃべることができたら少しでも楽に会話することができたのかなと思うと、ちょっとでもいいから勉強しておけばよかったと思いました。今度旅行に行くときは勉強していきたいと思いました。

楽しかったことは、大真高校の人たちと行動したり話をしたりしたこと。友達になった

大真高校の人が私と同じK-POPアイドルが好きだと知ったときはとても嬉しくテンションが上がりました。会話も最初は緊張してあまり話さなかったのに、どんどん緊張が解けていっぱい話して写真もいっぱい撮れるようになりました。最後にはカラオケに行ってしまうぐらい仲良くなりました。楽しく研修に行けて良かったと思いました。(2年生)

私は今回の韓国研修を通してたくさんの事を学ぶことができました。本当に1日1日が楽しくてとても良い思い出で“1番思い出に残った場所”なんて選べません。この4泊5日の間で出会った人みなさんがとっても優しく本当に感動しました。大真高校の先輩たちは、年下の私たちに対して優しく道案内してくれたり、荷物を持ってくれたり、迷子にならないようにと人混みを歩くとき前と後ろを挟んでくれたり、とにかく行動1つひとつに驚きました，“こんなに心優しい人がいるんだな”と。ご飯を一緒に食べたり、写真を一緒に撮ったり、プレゼントをしたり、私たちが想像する以上の事をしてくれました。その後もSNSを通してグループをつくったり、お互いのパートナーと連絡を取り合ったりと…。ちなみに私は今もずっと連絡を取り合っています。初の韓国友人が大真高校の人たちで良かったし、言葉で表しきれないほどの優しい心を持った方たちに会えて本当に心の底から良かったです。大学生ガイドのオンニ(お姉さん)とも一緒にご飯を食べたり、写真を撮ったり、SNSを交換したり、良い思い出をたくさんつくることができました。このスペースに書ききれないくらい書くことがたくさんあります。そのくらい私の中でこの韓国研修は一生忘れられない思い出となりました。大真のみなさん、オンニ、そして先生、4泊5日ありがとうございました。(1年生)

この研修を通して今まで以上に韓国を好きになりました。韓国と日本は政治的に仲が良くはなく、悪い状態で、韓国の人はどう思われているのか不安でした。しかし、私が研修で出会った韓国人は皆優しく、私たち日本人にとっても良くしてくれました。テレビで反日などと騒いでいますが、すべての韓国人が反日なのではなく、ほんの一部なんだと知りました。プライベートでは体験することが難しい韓国の学生さんたちとの交流では、びっくりするほど日本語が上手で、翻訳アプリが必要ないほどでした。私も韓国語をたくさん勉強して、今度は韓国語でしゃべれるくらいになりたいです。おすすめのご飯を食べさせてくれたり、とても優しい学生さんたちに出会えて良かったです。最後の韓国での買い物では、服や化粧品など、全てが日本より安く、買い物をするのが楽しくて、時間が全然足りませんでした。特に梨大(イデ)が安く、買いすぎてしまいました。そのため荷物がすごい量になってしまい、キャリーケースには入りきらず、手持ちの荷物がとても重くなってしまいました。もっと韓国にいたいと思える研修になって本当に良かったです。また行きたいです。(1年生)



5 おわりに

研修3日目の夜、鈴木先生は読売新聞の記者から取材を受けた。その時の記事である。

日韓高校生交流「壁はない」

小美玉・中央高 ソウル散策 記念撮影も

街中でカラオケや食事を楽しんだ両校の生徒たち。写真を撮って別れを惜しんだ

韓国との教育交流事業に取り組み県立中央高校（小美玉市）の女子生徒16人と教諭2人が1月下旬、韓国ソウル市近郊の大眞高校を初めて訪問し、生徒らと交流を深めた。同校は来年以降も中央高校の生徒を受け入れることを表明し、生徒の派遣にも前向きな意向を示したという。

韓国との教育交流事業に「今回の交流は日韓にとって良い機会。互いの文化を学んでほしい」。引率者によると、大眞高校の校長はこうあいさつ。生徒代表の高橋蘭さん（17）は韓国語で「この交流を通して、若

統文化を学んできた中央高校の1、2年生は1月22日、大眞高校の会議室で開かれた交流会に参加した。同校は男子校で17人が参加。

い感性で仲良くしていければ」と返礼した。

両校の生徒たちはお菓子などのプレゼント交換や学校内の見学後、ソウル市内へ。カラオケやユッケなどの食事を満喫したり、韓国の伝統行事や国立民俗博物館を見学したり。別れ際には、若者らしく笑顔でおどけて撮影する光景があちこちで見られたという。

帰国後、高橋さんは「みな優しくアニメの話とか楽しめた。壁はなかった。高校生活の一番の思い出に

大眞高校から中央高校に贈られた韓国糊土の壁掛け

なった」と話した。

中央高校が昨年実施した韓国の別の高校との交流事業は、政治や環境の問題に保護者が不安を抱いたことから、中止になった。一行の帰国後、深谷浩一校長は、大眞高校が交流継続を希望したとの報告を受け、胸をなでおろし、「政治と青少年交流は別物だ」と思いが

通じた」と感じた。

生徒が提出した感想文には、温かく接してくれた韓国人との思い出が多くつづられていた。校長室には、大眞高校から贈られた韓国糊土の壁掛けが飾られている。鳥や花があしらわれ、平安を感じさせる。「両校の友好の証し。大切にしていきたい」と話している。

令和2年2月9日（日）付け読売新聞より転載。
※掲載にあたっては、読売新聞社から転載の許可を得ています。

生徒たちは韓国に行って韓国人とともに楽しい時を過ごして交流を深め、最高の思い出をつくることができた。韓国側でも、習いたての日本語で自国の文化を紹介し、日本人と会話をし、楽しい時を過ごして交流を深め、最高の思い出をつくることができた。実際に、日韓両国の高校生の交流に、全く壁はなかった。両国生徒たちの、とびっきりの笑顔が物語っている。これからの社会を担う日韓両国の高校生にとってウィンウィンの素晴らしい体験であり、このような体験をさせてあげられたことは、教師冥利に尽きる。



K-POPやコスメばかりに関心が高く、語学に対する向上心・日韓両国の歴史に対する理解等、もの足りなさを感じる生徒もいたが、今回の研修が、韓国語や韓国の歴史や文化を学ぶきっかけになると信じている。そして、大なり小なり日韓両国の平和友好の架け橋になってくれると信じている。深谷校長、イゼワン先生、鈴木先生の恩に報いるためにも、そうなってくれることを心から願う。

最後に、今回の韓国研修が大成功で終わることができたのは、政治的に日韓関係が冷え込む中、人対人の交流の重要性を説き最後まで諦めなかった日本側深谷校長と、バイタリティあふれる熱く寛大な心を持った韓国側イゼワン先生の両先生、そしてあのスピーチに象徴される熱い気持ちで綿密な計画を立ててくれた鈴木先生のおかげである。諸先生方に心より感謝したい。

